**読書感想文カード記入例**

**①面白いと思った、または、感動した場面・セリフ**

 **ワンリーとトンキーがえさもらおうとして、ばんざいの芸当をやって、しいくのおじさんがやってはいけないえさと水をあげてしまうところです。**

 **死んだ象を抱きしめながら、おいおいと泣き、『せんそうを　やめろ！』と心の中で叫んだところです。**

 **おじさんたちは本当に辛かったと思います。**

**②似た体験**

 **近所で遊んでいるときに、家で働いている女の人がかわいがっていた子猫がおいてあるバイクでじゃれていました。すると、バイクの持ち主のおじさんがやってきて、猫がいることがわかっているのに、わざとバイクを手で押して、猫を引いてしまいました。ぼくは、すぐに苦しんでいる子猫を手に包んで、近所に住んでいた女の人のところに連れて行きました。女の人は、ちょっとでも病気をすると、動物病院に連れて行く優しい人でしたから、すぐに動物病院に電話をしようとしました。ですが、背骨が折られてしまっている子猫を見て、もう救うことはできないと悟り、電話をすることを諦めました。本当に悲しそうな目をしていました。今でも思い出すと、涙が出てきてしまいます。**

**③作者が言いたいことは何？**

 **戦争は、兵士や兵士の家族だけでなく、戦争に関係のなかった多くの人や動物も苦しめたということだと思います。**

 **また、苦しんだのは、えさと水のもらえない動物だけでなく、わが子のようにかわいがっていた動物の飼育のおじさんたちであるということが言いたいことの一つだと思います。**

**④あらすじ**

 **そのころ戦争をしていて、東京に毎日のように爆弾を落とす飛行機が来ていました。爆弾で檻が壊れて、猛獣たちが町に飛び出すことを恐れた軍は、動物園の猛獣たちを殺すように命令しました。ところが、象は利口で毒の入っているえさを放り投げ、また、皮が厚いために注射もできません。しかたなしに、えさと水を与えないという最も酷いやり方を選ばなければなりませんでした。弱ってきたワンリーとトンキーはばんざいの芸当をして、えさと水を下さいとおねだりします。それを見た飼育のおじさんは、我慢できずに、えさと水をやってしまいます。象が生きている間に戦争が終わることを祈りましたが、ついにワンリーとトンキーも力尽きて死んでしまいます。おじさんたちは象を抱きしめながら泣き伏します。**

**⑤問題にしたいこと（問い）**

 **どうして、家で働いていた女の人がかわいがっていた猫や、物語のワンリーとトンキーは死ななければならなかったのでしょう。**

**⑥本を読んで自分が変わったところまたは考えたこと**

 **子猫を引いたおじさんは猫が嫌いだったのだと思います。嫌いな猫が自分のバイクでじゃれていることが許せずに、猫を憎み殺してしまったのだと思います。物語の象３頭やライオンなども、人間が憎しみあって起こした戦争のために死ななければなりませんでした。憎しみは様々な人を苦しめ、不幸にします。ですが、動物たちも人も愛情をかければ、愛情を返してきます。憎しみは憎しみを生み出しますが、愛は愛を生みます。愛で地球上が満たされれば、もっとよい世の中になると思います。**